

# 聴く

新潟いのちの電話 だより

2018.12

No.139

相談電話

**(025) 288-4343**

上越 (025) 522-4343

長岡 (0258) 39-4343

新発田 (0254) 20-4343

村上 (0254) 53-4343

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa-net.jp>



# 虹の約束

日比野愛子

先日、人生始まって以来、一日の間に最も多くの虹を見ました。

一つ目の虹は、8時半頃小雨が降り、光が差し込んできた時でした。新潟市内に虹色の雲がかかり、素敵な一日になりそうだと感じました。

二つ目の虹は、上越市の海岸沿いを走っていた時でした。突然に大雨が降り、どうしようかと思っていたその時、くっきりとした美しいアーチ型の虹が海に浮かびました。

三つ目の虹は、帰り道の夕暮れ時。雲から何本も光が差し込み幻想的な風景を創りだし(この光を「天使のはしご」というそうです)本当に天使が舞い降りてきているようでした。そんな中、また雨がパラパラと降り、急に目の前に大きな柱のような虹が現れ、しかも横にもう一本二重に虹が出ておりました。そして、反対側にもまた、もう二本、二重に虹が出ており、感動し「いったい、これから何が起こるのだろう!」と思わずにはいられませんでした。

虹は「神様の永遠の約束」と言われますが、すべてのいのちを創造された、壮大な存在を思い起こさせます。虹が出る前は、雨。しかし、人生の涙の日、嵐の日であっても、その先の虹を思い耐え忍んで行く時、私達の心は練られ、磨かれ、愛の純度が高められてゆくのではないのでしょうか。「天上の音楽」のコンサートではいのちの希望や愛をテーマにしておりますが、自分の考えだけでなく、助け合い、愛し合い、赦し合う時に、地上にいながら天国を先取りしたような、愛に満ちた人生を送る事ができるのではないかと思います。

そのように生きた人は、地上に多くの愛の遺産を一人一人の心に残してゆき、それらはずっと受け継がれていくのではないのでしょうか。

鉛色の空の季節になると不安を覚えてしまう事もありますが、同時にシベリアから白鳥の姿を見ることのできる季節でもあります。家族が助け合いひたむきに飛ぶ姿に感動しつつ、今日生かされている喜びをかみしめて生きていきたいと思えます。

日比野愛子(ひびの あいこ)

二期会会員。シュトゥットガルト音楽大学マスタークラス修了。ミラノ音楽院修了。オペラ「カルメン」タイトルロール、「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル、「椿姫」フローラ、フィガロの結婚「スザンナ」等に出演。ぐるーぶなべ会員。「いのちの希望」を届けるコンサートを、学校、病院、介護施設にて100公演以上行っている。

## ある日の相談室より

「朝から何も食べていないんです」

14時過ぎに電話をかけてこられた80代の男性は、力なく話し始めました。朝食も昼食も食べたいと思わなかったし、米を研ぐ気力もわからないんです…とのこと。家族は16年前にがんで亡くなった奥さんだけ。米作りの仕事もあったから、元気なうちは頑張りたいと思って生きてきました。一人暮らしにも慣れて、今までは何とか一人で生きてきたけれど、最近気力がなくなって、このままいなくなってしまうと思うことが増えたそうです。

近所には同級生も何人かいて「遊びにきなせえ」と声をかけてくださるとのこと。何とか自分を奮い立たせて足を運んでみるけれど、息子や孫と同居している人たちは経済的にも精神的にも余裕があって、自分との格差を感じてしまうそうです。みじめな思いをしたくなくて、外出を控えるようになり、気づけばもう何日も人と言葉を交わしていなかったな…と力なく笑われました。「すみませんねえ、こんな話されても困りますよね」とこちらを気遣う言葉に「いいえ、そういう方にかけていただくためにこの電話はあるんです」と返しました。

「食事を作る気持ちにはなれないけれど、何かすぐに食べられるものを口に入れてみようと思う」と言ってくださいました。この方に少しでも、明日を迎えたいという気力がわきますように…そう願いながら、受話器を置きました。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)



毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は  
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。

電話番号 0120 - 783 - 556

## 弱点を強さに変えて…

櫛谷 晶子

今回も私達が現在生きている場所から、人類史を眺めてみたいと思います。

現在、地球上に広く生息している人類はホモ・サピエンスです。人類学者によるとホモ・サピエンスは、一時期併存していたネアンデルタール人に比べると、体格も体力も劣った属だったとのこと。しかし、ネアンデルタール人は絶滅し、私達ホモ・サピエンスは生き延びて、今は76億人を超える人々が地球上で、悲喜こもごもの日常生活を繰り広げています。

ホモ・サピエンスが強者を逆転し、生き延びた鍵はその“弱さ”にあったといわれています。大きな体も強い力も持たなかった私達の祖先は、食料を得るために血縁を超えた集団を形成し、集団をつなぐ手段として言語を発達させ、困難を乗り越えてきたようです。(ちなみに、狩猟能力の高かったネアンデルタール人は、血縁による小集団で生活していたようです。)

血縁を超えた助けあいと、言語による細やかなコミュニケーションがホモ・サピエンスの生存の原点だとすると、「いのちの電話」はその原点に立った活動といえますね。

言語は音声言語から文字言語に、そして電子化された言語にと、日々変化

していますが、多くの人が生まれて初めて出会う言語は情緒のこもった音声言語です。これは、しばらくは変わらないように思います。

自分の発する言語にどんな意味と情緒を乗せ、何を伝えるのか？ 大げさかもしれませんが、人類の生き残りをかけた課題のひとつといえるかもしれません。

(臨床心理士)



## お知らせ

### ご支援ありがとうございました

9月23日、チャリティバザーを開催しました。ご寄付いただいた品やお花の販売、喫茶コーナーなど、たいへん盛況でした。

後援会の皆さまをはじめ、たくさんの方々のご支援、ほんとうにありがとうございました。

### いのちの電話全国研修会

10月18日～20日、新潟市中央区の会場で、全国から約600人の電話相談員が参加して行われました。

基調講演では、作家・僧侶の家田荘子さんが、「この世に生まれ、生きて、生かされて」というテーマで、「孤独を感じている人に誰にでも役割があることを伝えて」と話されました。

また、三味線奏者の小林史佳さん、母の高橋竹育さんが、史佳さんのうつ病の経験から、母の支えと音楽を糧に、生きる意味を取り戻していった過程を、演奏を交えながら話していただきました。



### 第37期ボランティア相談員募集

現在約150名のボランティア相談員がこの活動を支えています。近年、相談員不足が深刻です。一緒に活動する仲間を募集します。

申し込み期間

2018年12月1日～2019年2月28日

研修期間

2019年4月～2020年3月まで1年間

原則として毎週木曜日、

18時30分～20時30分

年齢 23歳から66歳まで

受講料 年間3万円(一部補助すること

があります)と一泊研修の実費

募集要項など詳しくは、ホームページをご覧ください。事務局にお問い合わせください。

### クリスマス・歳末募金のお願い

センターの維持費、相談員の研修など、いのちの電話の活動のために、皆さまのご協力をよろしくお願いたします。

2018年12月1日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館  
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677  
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp>

12月の絵手紙

---



Sakurai Kouzi